



## 釧北牧場

戦時中は軍用馬を育成



入牧作業の様子（平成26年5月）

——家畜の増殖施設として、中里へ牛馬の放牧場を新設し、釧北共同放牧地に放牧したものは、主として2歳の馬を延べ190頭を放牧——

昭和21年の事務報告には上のように記されています。また、翌年の書類には、釧北5カ年、中里1カ年の貸し付け期限で、釧北には延べ2,500頭、中里には延べ350頭の馬を6月から11月まで放牧したとあり、その後は中里の貸し付けを見ていません。

戦時中は軍馬の必要から馬産振興が行われ、各地に国有林や道有林の貸し付けを受けて放牧地が設けられました。釧北牧場は昭和17年より軍用馬保護育成の名目で貸し付けを受け、戦後も引き続き借り受けていました。

置戸は全面積の8割以上が山林ですが、美林のほとんどは国・道有林で、町有林は皆無に等しいものでした。そこで、村では、国有林野内馬産限定地に対する自作農創設特別措置法に基づき、釧北牧場の強力な払い下げ運動を展開しました。

同地の国有林は網走と十勝の両局内にまたがり、また、道有林も含まれていたことから出願手続きがむずかしく価格面でも難航しましたが、結局、昭和27年に国有林319万2,226平方メートル、道有林151万1,344平方メートルを、253万867円で取得しました。

同地には針葉樹の素晴らしい樹海が一部残されており、「この木1本でも道有林へ支払った額より高い価値がある」といわれたほどで、取得後、牧場造成のため次々と立木を伐採し、この売り払い代金を置戸小学校校舎建築に充当するなど、町の大きな収入源となりました。

現在、釧北牧場では、毎年約300頭の牛を夏季放牧しており、また、草地造成は国や道の助成を受けて実施し、約315ヘクタールが草地となっています。なお、放牧牛の内約100頭については現地で人口授精を実施するなど、町内の酪農振興に大きく貢献しています。

（参照：置戸町史下巻）

## ワカサギ釣りに歓声

### おけと湖で氷上釣り大会



氷上で釣果を競う参加者たち

町観光協会主催の第30回おけと湖氷上釣り大会が1月25日、鹿ノ子ダムおけと湖で開かれ、町内外から集まった70人余りが、シーズン真っ盛りのワカサギ釣りを楽しみました。

大会は、一般と中学生以下の部に分かれて、制限時間2時間で釣果を競うというもの。参加者は防寒着をしっかりと着込み、寒さに負けず釣り糸を垂らし、ワカサギが釣れると歓声を上げていました。

昼食にはワカサギの天ぷらや、豚汁などが振る舞われ、体を温めていました。

大会結果は次のとおりです。（敬称略）

- ▷一般の部 ①山崎昭治（置戸町・120匹）
- ▷中学生以下の部 ①高橋潤乃介（遠軽町・22匹）
- ▷大物賞 室井浩志（北見市・290g・アメマス）
- ▷釣女（つりじょ）賞 藤井美香（旭川市・26匹）